

# 県立茅ヶ崎里山公園の将来目標と実現について（提言）

平成20年3月

平成19年度茅ヶ崎里山公園専門家会議 座長 倉本 宣

「茅ヶ崎里山公園専門家会議」は、永続的な公共施設である県立都市公園として、茅ヶ崎里山公園がいかにあるべきか、次の二点について、神奈川県藤沢土木事務所長から諮問を受けました。

- 一．県立茅ヶ崎里山公園として利用・保全のあるべき方向性
- 二．一を継続的に実現するための方法

以上の検討に当たっては、地域の生物多様性や歴史、文化などの視点を踏まえ、公園管理者のみならず、公園利用者も共有できるような公園利用と保全の在り方に係る価値の整理を行いました。

我々日本人の祖先は日々の生活に必要な糧やエネルギー源を身のまわりの土地を耕作したり、自然の恵みを上手に生かしたりするすことで得ていました。田んぼや畑に必要な肥料を近くの林の落ち葉を堆肥にしたり、煮炊きに必要なエネルギー源を雑木林から薪を取ったり、炭を焼いたりすることで得ていました。また、沖積平野を中心に発達した稲作には長い歴史があり、日本は古来から、瑞穂（稲の穂）の国でもあるとともに、秋津島（トンボ）の国でもありました。田んぼはウェットランドとして、北方系と南方系など様々な生き物に生息環境を与えると同時に、淡水魚の産卵場やサギなど鳥類の餌場でもありました。薪や柴を得るために手入れされた薪炭林（雑木林）には陽の光が入り、早春の林床植物や樹林地を利用する両生類、蝶類などの生息環境にもなっていました。人々は豊かな収穫を願ったり、祝ったりするなど、季節の折々に農を中心とした行事や風習が地域毎にそれぞれ伝えられてきました。このように、田畑や雑木林などで構成された里山では自然の恵みを生かしながら、多様で豊かな自然と文化が育まれ、自然と人間の共存の一つの形を作ってきたとも言えるでしょう。

そのような里山にここ数十年の間に大きな変化が起きています。それまで、依存していたエネルギーが石油などの化石燃料に変わることによって、雑木林には手が入らなくなり、農業の衰退等により水田の耕作放棄地が増え、里山環境の単純化、断片化ともいえる現象が生じています。一方で、都市部では宅地化や様々な土地利用等による都市化が進み、多くの動植物の生息環境にもなっていた里山自体、大きく減少しています。

本公園が立地する茅ヶ崎市小出地域には縄文遺跡が見つかるように、古くから人々が住み、明治初期には耕地に適した土地はほぼ、水田などに利用されていました。昭和中期以降、茅ヶ崎市は南部を中心に市街化が進み、北部の丘陵や河川の周辺に農地や樹林地等の緑が残される状態となりました。本公園は谷戸が入り組み、樹林地と水田、畑で構成された里山の風情を感じさせる茅ヶ崎市北部に位置しています。

平成5年に「湘南ウェルネス」をテーマとした都市公園として都市計画決定され、平成13年度に一部が開設されましたが、公園工事に対して様々な意見等が出されたため、地域や自然保護グループ、関係行政機関等で構成された「茅ヶ崎里山公園協議会」が平成14年度に設置されました。協議会では、公園の整備や管理運営などについて様々な意見交換や視察、勉強会などを行いながら、緩やかな合意形成を図り、議論の成果を施設整備や管理運営に反映させるなど、市民参加による公園づくりが進められてきました。平成17年度には市民と行政との協働により里山保全を実践し、里山文化を発信することを目的として公園利用者等の市民から成る「茅ヶ崎里山公園倶楽部」が発足し、農作業や樹林地管理等が行われてきました。しかしながら、本公園の核心部とも言える柳谷（※やなぎやと）をどのような方向性

で、どのように守っていくかについては、里山という方向性では概ね一致しているものの、協議会構成員によって価値観や知見が様々であるため、たとえば、当公園内に生息する希少種を始めとした様々な生き物をどのように捉え、整理するかなど里山の具体的な保全イメージを共有し切れない状況にありました。

こうした状況を打開するために、神奈川県からの諮問を受け、現地を視察するとともに、公園を利用している市民グループ等からのヒアリング、資料提供などを通じて、これまでの公園の整備や管理運営の経緯と課題の把握に取り組みました。その結果、次の二点が本公園の課題であると考えられました。

- ・本公園（特に柳谷）に係る様々な関係者の思いが強く、多様な価値観や知見の違いにより、公園全体として、どのような価値観を重視し、どのような方向性で具体的に管理運営していくべきかの合意形成が図られていないこと。
- ・通常の都市公園の維持管理とは異なり、里山保全には市民と行政による協働が必要不可欠であり、かつ生き物に係る不確実性があることから、関係者の意見をコーディネートし、公園利用と里山保全のバランスを取りながら、順応的な管理を実践していく仕組みが求められていること。

上記の課題を踏まえた上で、本公園の方向性を整理するため、これまでの協議会での議論を整理し、公園利用者や地域住民が本公園に対してどのような価値観やニーズを持っているのかを把握するアンケート調査や一年を通じての植物、両生・爬虫類、鳥類、昆虫類の生き物調査を実施しました。多くの市民がここで大切にしたいものとして、里山環境を挙げたアンケート調査結果にも示されたとおり、本公園の立地する小出地域の価値は人が昔から土地に対する様々な働きかけによって織り成され、育まれた生物多様性と里山（地域）文化であります。里山の多くが危機的な状況に置かれている中で、茅ヶ崎市北部に残る数少ない谷戸が都市公園として、永続的に残されることとなった意義は大きく、この地域の生物多様性や文化を含めた小出地域の潜在的価値が都市公園ならではの里山文化の継承、レクリエーション、環境教育（子ども達への原体験の提供を含め）と融合しながら発揮されるようにすることを、本公園の将来目標とすべきと考えます。そして、将来目標の実現のためには、従前の都市公園の管理運営ではあまり重視されてこなかった生き物にも配慮した柔軟で新たな管理運営の手法を確立することが必要になると考えます。現在、里山の価値を改めて見つめ直し、豊かな里山環境を取り戻すための市民参加による里山保全の取り組みが全国各地で始められていますが、本公園の管理運営の難しさは、ここに思いを寄せ、活動してきた自然保護グループと、地域の里山景観を守ってきた地域などの関係者の思いがそれぞれに強く、その思いを一つの方向に収斂できていないことではないかと考えられます。しかし、これは里山保全に必要な様々な市民の力が潜在的に存在していることを意味しているとも言えます。この専門家会議で提言する将来目標が本公園を育てる上でのバックボーンとなり、本公園に係る多様な一人一人の力が人と生き物の豊かで、にぎわいのある茅ヶ崎里山公園になるために有機的に活かされることを願って、茅ヶ崎里山公園専門家会議として、公園管理者である神奈川県藤沢土木事務所長に次のとおり、提言します。

## 提 言

- 一 茅ヶ崎里山公園はこの地域の潜在価値及び都市公園としての価値を最大限発揮するよう、里山（地域）文化の継承、生物多様性、環境教育、レクリエーションの4つの価値を重視し、人と大地のつながりがあり、人と生き物（命）のにぎわいのある茅ヶ崎里山公園を将来目標とすること。

上記の将来目標を実現するために次の4点の基本方針を提案します。

- 一 人と生き物のにぎわいのある里山を目指すために、田んぼ―畑―雑木林等のモザイク環境を用意すること
- 二 樹林地については、現況植生を基本とした保全型活用を図ること
- 三 谷戸低地については、多様な生き物が生息できるよう複数の植生区分のある湿地として育成管理すること
- 四 伝統的に里山を守ってきた技と文化の継承を目指すこと

- 二 茅ヶ崎里山公園の将来目標である人と生き物（命）のにぎわいのある都市公園を実現するためには、従前の都市公園の管理運営にはない、新たな仕組みが必要になると考えられます。その仕組みとは、生き物の不確実性に鑑み、常に里山環境のモニタリングと管理方法及びその結果の検証を繰り返しながら、柔軟に管理方法にフィードバックするという順応的管理の仕組みであり、必要な次の機能の立ち上げの検討を進めること。

- 一 人と生き物のにぎわいのある都市公園を目指すために必要な里山環境を捉えるための緩やかなモニタリングを指定管理者のコーディネートのもと、公園利用者や市民グループ等との連携により実施し、情報を一元的・統合的に収集・管理し、管理運営に活かすこと
- 二 公園利用と生物多様性保全等とのバランスを図るため、指定管理者がコーディネーターを配置し、地域の専門家等の意見を聴きながら、核になって茅ヶ崎里山公園の管理運営をコーディネートすること
- 三 豊かな里山環境を保全していくためには、地域、公園利用者、市民グループ、小学校などの教育機関等、多様な主体との連携が必要不可欠であり、公園利用と里山保全の価値観とルールとの緩やかな共有を図ること
- 四 上記の3つの機能の立ち上げに当たっては、茅ヶ崎里山公園の管理運営に係る関係者が茅ヶ崎里山公園の将来目標や管理運営の在り方を共有するとともに、併せて、公園管理者・指定管理者の責務と役割と市民の役割が十分に認識されるよう留意すること

## 平成19年度 茅ヶ崎里山公園専門家会議委員

明治大学 農学部 教授	倉本 宣 (※座長)
和歌山大学 システム工学部 教授	養父 志乃夫
(財) 日本野鳥の会 神奈川支部顧問	浜口 哲一
茅ヶ崎市 香川公民館	岸 一弘
茅ヶ崎市小出地区自治会連合会 会長	矢野 藤昭
茅ヶ崎市立小出小学校 総括教諭	神戸 宏
(財)公園緑地管理財団 公園管理運営研究所 研究部 主任研究員	堀江 典子
久田緑地倶楽部	土屋 真美子
(財) 神奈川県公園協会 自然公園課 課長	坂本 政美
神奈川県 藤沢土木事務所 なぎさ港湾部 部長	青島 元次